



令和元年度 卒業証書授与式 式辞

校長 門田 浩一

三月を間近にひかえ、校庭の桜の枝も、こころなしか淡い桜色に色づき、春の訪れを待ちわびているようです。

このよき日、ここに、大阪府立芥川高等学校、第三十八回卒業証書授与式を、保護者並びにご家族の皆さまをお迎えして、挙行できますことに、心からお礼申しあげます。

ただ、今回はコロナウイルスへの対応を取る必要から、例年とは異なる形での卒業式となりました。誠に残念ではありますが、状況をお諮りいただき、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

先ほど、今年度の卒業生二百四十八名に卒業証書を授与いたしました。保護者の皆さま、ご家族の皆さまには、卒業生の、晴れの姿を、一瞥になり、その喜びは、ひとしおのことと、ございませう。本当におめでとうございませう。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。4月からは、新しい学校に通う人、新しい職場に勤める人、など、それぞれの進路に進まれるわけですが、その門出にあたって、少しお話をします。

「ぼーっと生きてんじゃねえよ!」 この少し乱暴に聞こえることばが、昨年あたりはやったようですが、私たちはつい毎日と同じことの繰り返しのように考えてしまい、何となく、それこそ、この言葉のように、「ぼーっと」生きてしまいがちです。

「明日も今日と同じことの繰り返しかあ... つまらんなあ」 そんなふうな思うことはありませんか? けれども、考えてみてください。あなたがお店の店員さんだとして、お客さまに商品を渡すとき、「ありがたうございませう」と笑顔で声をかけるとします。あなたにとっては、毎日同じことを繰り返していると感じるかもしれませんが、お客さまにとっては、どうでしょう。その笑顔に、ほっこりする人が、きっといるはずですよ。あなたの笑顔にほっこりした人は、きっと、その気持ちで今度は自分の周りに広げていこうとするはずですよ。

私たちは、自分の人生が自分だけのもの、自分でだけで完結するものだと思います。けれども、それは違います。私たちの人生は、たくさんの人の影響を受け、自分自身もたくさんの人に影響を与えてつながつているものなのです。これは、私たちの「仕事」にも通じることです。私たちは仕事を通じて、知らない間にたくさんの人々とながら、気付かないうちにお互いを支え合っているのです。

私がこのことを強く感じたのは、一昨年9月に台風21号が大阪を襲った時でした。あの日の夜、いつも通っている商店街は、停電のために自分の足元さえ見えないほどに真っ暗でした。その暗闇を抜けて、灯りがともっている鉄道の駅を見たときは、本当に心の底からほっとしたものです。鉄道会社の社員さんが、復旧のため懸命に作業してくれておかげです。おそらく、その社員さんに私が直接会って、お礼を言うことはできないでしょう。けれど、私はこのとき感謝の気持ちとともに、その顔も名前も知らない人々と確かにつながっていること、支えられていることを感じました。

一人ひとりの人生や仕事は、とても小さなものです。けれど、それらがお互いにつながって、この大きな世界を作っているのです。この世界を動かしているのです。だから、この世界には、つまらない仕事やどうでもいい人生というものも、存在しないのです。

これは、私の好きな次の言葉にもつながっています。それは、「わたしたちは微力だけれども無力ではない」です。

私たち一人ひとりが持っている力は、とても小さなものです。けれど、けつしてゼロ口ではありません。人と人がつながり合えば、お互いに影響し、支え合う中で、小さな力は大きな力となり、世界を変えていく力になるのです。

私たちは微力だけれども、無力ではない。私たちに、世界を変える力がある。どうか、このことばを、忘れないでください。そして、皆さんの半径1メートルの世界から変えていきましょう。家族、友だち、恋人、職場の同僚。だれでもいい。あなたが手を伸ばせば触れることのできる、身近な人をどうか大切にしてください。

皆さんが大切にしたい人は、その喜びを今度は自分の周りに広げていこうとするはずですよ。そうすれば、池に投げた小石が起す波紋がどんどん大きくなるように、小さな変化が大きな力となり、この世界をより良いものに変えていくのは可能です。世界を変えていくために、特別な知識や財産は必要ありません。必要なことは、信じて、一緒に信じていきましょう。私たちに、世界を変える力があるという、このことを。

さて、私のお話もそろそろ終わりにさしかかりました。ここで皆さんに、校長から最初で最後の宿題を皆さんに出します。

それは、「これからの人生で幸せになる」という宿題です。幸せといっても、それは人それぞれにその形は違います。どうか焦ることなく、ゆっくり、それぞれの幸せを見つけてください。皆さんが、この宿題を必ずやり遂げてくれることを、私は固く信じています。

さあ、明日から新しい生活が始まります。卒業生の皆さん。今日まで芥川の生徒でいてくれて、本当にありがとう。皆さんのこれからの人生に、幸多からんことを心から祈ります。

大変な時期の、来賓のいない・在校生は生徒会長がひとりだけの体育館。前日の気の抜けた予行に比べ本番の卒業式では、入場・礼・着席の動作もキビキビとし、気持ちが入っていると感じました。校歌は1番だけとはしりましたが、卒業の歌「正解」は、フルコーラスで、今までの練習よりも立派に歌い切ったと思います。答辞もコンパクトに3年間の思いがうまくなるとめられていて、呼名をしない形態でしたが、卒業生ひとりひとりが本場にぎりぎりのタイミングで「ピンチをチャンスに」変えてくれた思い出に残る卒業式になりました。式後の体育館の準備・撤収などご協力いただいた教職員の方々、本校の教育活動を支えて戴いた保護者の皆様、本当にありがとうございました。2年後の「二十歳の会」で会えることを楽しみにしています。



第38回 卒業証書授与式 第3学年主任

大変な時期の、来賓のいない・在校生は生徒会長がひとりだけの体育館。前日の気の抜けた予行に比べ本番の卒業式では、入場・礼・着席の動作もキビキビとし、気持ちが入っていると感じました。校歌は1番だけとはしりましたが、卒業の歌「正解」は、フルコーラスで、今までの練習よりも立派に歌い切ったと思います。答辞もコンパクトに3年間の思いがうまくなるとめられていて、呼名をしない形態でしたが、卒業生ひとりひとりが本場にぎりぎりのタイミングで「ピンチをチャンスに」変えてくれた思い出に残る卒業式になりました。式後の体育館の準備・撤収などご協力いただいた教職員の方々、本校の教育活動を支えて戴いた保護者の皆様、本当にありがとうございました。2年後の「二十歳の会」で会えることを楽しみにしています。



卒業生から母校への卒業記念品

38期生から母校におくる卒業記念品として、ウォータークーラー2台を寄贈していただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

PTA広報誌「阿久刀」113号を発行しました

総務部PTA係

PTA広報誌「阿久刀(あくど)」113号を2月27日(木)に生徒を通じて配布しました。38期生卒業にあたってのお祝いの言葉、2学年修学旅行報告、今年度のPTA活動の報告などが掲載されています。